

## 常盤塾議事録(10/14)

日時：2017/10/14 10:00-13:00

場所：新国際ビル MBF ハウス

参加者：常盤先生、片平先生、古城さん、松永さん、白井さん、大下さん、松崎さん、丸山さん、今田さん、古川さん、昌子さん、安梅さん(Skype 参加)

### 一分間スピーチ

#### 1.古城さん

EV が普及しそうである。とくに海外メーカーの躍進はめざましい。ご自身も大学ではエンジンを研究していたが、エンジンはなくなると予想し車体研究へ。しかしEVの普及は失業者をもたらすという懸念点もある。

#### 2.松永さん

日本伝統工芸展へ行かれたお話。日本の伝統工芸品のお椀の、立派な木目と、漆を塗ることで増す上品な存在感についての動画を流された。

#### 3.白井さん

先々週、学会に伴い伊勢神宮の下宮にお参りに行かれた。白井さんは山梨県の丹波村を支援しており、その村の住人の方と偶然出会った。これは普段から強く思うことによって引き寄せの法則が生じたのかもしれないと感じ、これからも感性を磨いていきたいと思った。

#### 4.大下さん

久しぶりにローソンへ行ったところ、コンビニは便利だと再実感。昔から何百年も続く団子屋などもあることが頭をよぎり、コンビニは何十年、何百年経った後はどうなるのだろう、と思った。

#### 5.松崎さん

神戸製鋼と取引関係があったことを受け、インタビューを受けるようになった信用を

どう立て直すかが心配である。片平先生「最初に会社の数字やお金の話を持ち出す社長は信用できない」

#### 6.片平先生

世界の伝統工芸品展に行かれたお話。日本とフランスの対比をすると、フランスの方が伝統工芸品自体に厳かさが無いが、プレゼンや見せ方は上手。日本は製品そのもので勝負しているが、フランスは展示する空間など含め総合演出で勝負している。両国がもっと交流し、お互いの良さを学んでゆくとより良い。

#### 7.丸山さん

楢円の思考を受けて、どうすれば物事に説得力を持たせられるか考えてみた。その結果、フィクションとノンフィクションの使い方が鍵だと考えた。物事をより説得力を持って伝えるためにはメタファーが必要。

#### 8.今田さん

虚と実の話。最近、フェイクが通用しない世の中になってきた。例えばユーチューバーがくじを買い占めて当たりが入っていないことを告発する事件もあった。ご自身も縁日に行かれた時、くじ屋に「当たりくじがきちんと入っている」旨の掲示を見かけた。しかしそのくじ屋にはお客が全然いなかった。全部を実だと宣言するのも、面白みがないものだと感じた。

#### 9.古川さん

私たちの生活にスマホの影響は絶大であると実感した。マーケティングにおける主流も、エンゲージメントの方向に向かっている。すなわち、商品売るだけでなく、体験全体を売るようになったということだ。

### 常盤先生のお話

最近、企業とは何か、というテーマを考えている。その結果、結局は文化や風土が背景になり強い影響を持っているのだという結論に至った。企業は、個人が集まった「巨人」と言える。一人一人が何を考えて、その結果「巨人」が何を思い何をしよう

としているのか、ということが企業の本質であり、それを知らなければならない。人  
を知らなければならない、というのが企業のこれからの課題である。

ところで、AIは光の部分だけ注目されている。人間を超えている、と持ち上げる  
風潮は問題である。自分は、AIは人間を越せないと考えている。AIと人間の問題の  
焦点は、人間とは何かという点にシフトするだろう。

ここで意識の話へ移る。科学は目に見える物事へのアプローチ、唯識は目に見えな  
いものへのアプローチ。心は科学であり、研究対象が有形か無形かの違いにすぎな  
い。感性を理性に替えるプロセスが哲学であり、その中で、悟性というものが重要。  
悟性は物事を感じ取って一つの経験にしてゆく。宗教は人間生活の苦しみから抜け出  
そうとする営みであり、唯識と宗教は、アプローチこそ違うものの目的は同じ。しか  
しAIは心の問題は理解できないのでは？

意識＝六識＋自我執着心（自己愛）（末那識）＋個人意識、普遍意識（阿頼耶識）＋光  
の意識（神の世界）

光の意識（魂、希望、喜びなどもこの中にあると言われる）の中に本当の幸せがあ  
る。これの獲得を目指し修行するのが宗教。これに対し人間の意識は闇の意識。AIに  
は人間の祈りの回路は入れられない。人工知能と人間知能（神工知能）の違いであ  
る。企業も人間の心について考えなければならない。

（片平先生）「AIを敵視するのではなく、うまく共存関係を築くべき人間の本来の姿を  
はっきり表さなければ、AIの真の姿もわからない。両方が刺激しあって成長しなけれ  
ばならない。」

（松永さん）「人工知能の反対は自然知能。人間は自然に学んでいく。工学が発展して  
いくにつれ、自然知能を真似ていった。しかし問題が生じた。「知能が高いことではな  
く、知性が問題になるのでは？」という問題だ。この問題は理工学者ではなく、人を  
扱う者でないと語れない。ディープラーニングは視覚領域をコピーしているにすぎ  
ず、将棋や囲碁はパターンを覚えているだけ。シミュレーションやゲーム分野から来  
た人たちはAIに対し否定的になりがち。現在はフレーム問題に移行している。（数学  
と哲学みたいな）」

（安梅さん）「AIが『生の苦しみから抜け出したい』と思ったら進歩する。生命科学の  
観点から考えることも必要。」

## 昌子さんの発表を受けての議論

(今田さん)「タラントの例えの話。西洋では物事を際限なく伸ばすことが善だとされる。ルネッサンスなどもその思想が元になっている。それが高じて文化革命や資本主義が生じた。元来幸せはエデンの園で暮らすことだが、人類は追い出されている。すなわち、苦しみつつ知恵をつけていきたくしかなない。十字軍が拡大し続けた原動力もここからきている。日本は鎖国していて、あるものでなんとかする能力が高い。キリスト教においては輪廻転生が認められていないので、今の人生を充実させることに全力を注ぐ。そのため医療なども発展。」

(松永さん)「人口知能の話は貧困問題に向かう。結局人間に与えられた権利とは？」

(昌子さん)「平均寿命は伸びている。しかしそれに伴う負担はどうしたらよいのか」

(臼井さん)「不安は軽減された世の中だが、寿命が伸びることと幸せなことはイコールではないと思う。幸せは本人がどう思うかで、地球があつてこそそのもの。」

(昌子さん)「日本の自殺者の多さは、どう幸せと関係する？」

(古川さん)「幸せは主観だけなのか。楯円の考え方をする必要である。」

(松永さん)「研究者も工芸品作成者もクリエイター。こういう人が出てこないのは、フラットに議論できる環境が少ないから。」

(片平先生)「外国の大学の研究室は、研究室に序列はない。大学院生に積極的に機会を提供するなど、研究者間の関係はフラット。個人で好きなように研究できる環境である。規律は厳しいが、研究者の目は輝いている。つまり、何かを成し遂げる際仲間内に序列がない方がよい。また、答えありきの議論や賞を取るため、認められるための行動はおもしろくない。」

(松永さん)「矛盾があるものは面白いのに、会社では答えが綺麗に出せるものが求められがち。」

(松崎さん)「幸福は、周りの人々と分かり合えたなという実感や、自分の満足いくものが作れたなという達成感の積み重ねではないだろうか。」

(片平先生)「人間国宝の方のお宅は豪華なわけではないが、全てテイストがよい。彼らは七十二候に基づいて作品作りを行っている。」

(常盤先生)「幸せは議論して完全な答えが出るわけではないが、議論の中で幸せのヒントは出てくる。幸せは、人によって全く違うものである。一人の人間の中でも、時間軸と空間軸の中を動き回るものであり、変化する。また、一時的な感情は喜びで、ハピネスとはまた違うものを感じる。」

(安梅さん)「ウェールビーイングはハピネスが長く続くこと、と定義することができる」